

## 創部40周年を迎えて

岩見 恒典

日本にハンドボールが紹介されたのは、1922(大正11)年とのことであり、競技団体としての日本送球協会(戦後日本ハンドボール協会と改称)が創設されたのが、1938(昭和13)年なので、他のスポーツに比べて歴史が浅いといえよう。我が国におけるスポーツが、学生を中心に普及・定着してきたのと同様、日本のハンドボール競技の誕生は、学生ハンドボール競技の誕生ということでもある。資料によると、日本で最初の学生同士の公式試合は、1937(昭和12)年10月22日に、東京の体育研究所(小生が学生生活を送った、渋谷区幡ヶ谷の旧東京教育大学体育学部)グラウンドで開催された、第1回関東選手権大会に、日体大と慶応大が1回戦で顔を合わせたのが始めとなっている。翌年の5月に第1回東京学生リーグが、日体大・文理大(のちの東京教育大・筑波大)・慶応・早稲田・明治の5大学によって、行われたという記録がある。戦後、いち早く再建の手を打ったのも、学生とOB達であり、終戦から3ヶ月後の昭和20年12月2日に、関東学生選抜対OB選抜、日体大対一高(現在の東京大学)の試合を開催したという報告がある。

東海学生ハンドボール連盟の創始は、昭和28年で名古屋大学・愛知学芸大学(現愛知教育大学)・岐阜大学・信州大学など国立大学が中心であった。南山大学ハンドボール部は、昭和37年に同好会として発足したが、翌年4月に日本ハンドボール協会は、それまでの11人制から現在の7人制に切替えるという、画期的な決定を下した。したがって、創部当初は屋外での11人制の試合であり、7人制に切り替わってからも、しばらくは屋外種目として実施されてきた。創部当初は学連への加盟チームが少なく二部制であり、1968年度(昭和43)に三部制に、1987年度(昭和62)から四部制(22大学)となり、1993年(平成5)以降、一部が8チーム制となって、現在(30大学)に至っている。一方、女子は1984年(昭和59)から二部制になったが、男子ほどチーム数が増えず、現在は11大学が加盟している。

今日までの40年という歴史は、毎年何人かを送り、迎え入れることを繰り返すなかで、各年代の構成メンバーによって活動が継承されて築かれたものである。いうまでもなく、部員としての活動期間は四年間であり、巻末の名簿に記載されている人数は、260名余りであるが、様々な事情から途中で退部した者を加えると、南山ハンドに関わった人たちは、300名を越すことになる。南山ハンドは甲斐・岩瀬両氏を始め、石野OB会長を中心に、多くの卒業生の協力もあって、そのまともは、学内でも高い評価を得ていることは確かである。創部40年を契機として、卒業生と現役の絆をより一層強めることが、今後50年、100年という時点での南山ハンドを、大樹に育て上げることに繋がるのではないだろうか。

この冊子を作成するに当たって、昭和37年度の創部当初から、昭和55年までの戦績などについては、「20年史」と「30周年記念誌」に掲載されたものから抜粋し、同時に手元にあったリーグ戦のプログラムを軸にして、登録されたメンバーと戦績とを併せて整理したものである。当然のことながら、メンバーの中には様々な事情から退部した者もあり、顔を思い出せない名前にぶつかると、ワープロを打つ手が止まってしまい、効率の悪い作業になることがしばしばあった。また、試合結果に関する個人のデータも示してあるが、スコア・ブックの整理をしていない時期や、結果報告のない年度もあって、全てではないことと、整理の方法が異なることをお許し戴きたい。